



週報

2015～2016 年度 RI 会長 K.R. ラビンドラン
RI のテーマ 『世界へのプレゼントになろう』
第 2570 地区 ガバナー 高柳 育行

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www.l.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 江原伸夫 会長エレクト 佐藤圭司 副会長 浜野貴子 幹事 小島美恵子

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1086 回(5 月 24 日)例会の記録

点 鐘 江原伸夫会長
合 唱 我等の生業
第 2 副 SAA 小室君 栗原(憲)君
卓話講師 富士見台幼稚園理事長
園長 野々宮 達也 様

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
35名	25名	68.75%	81.82%

会長の時間

江原会長

こんにちは。本日は富士見台幼稚園園長の野々宮達也様にお越しいただいております。お忙しい中、外来卓話をお引き受け下さいましてありがとうございます。また、先々週には本日の参考に、と見学も兼ねて例会にも参加して下さいました。本当にありがとうございます。後程のお話しを楽しみにしております。何卒宜しく願い申し上げます。



それでは私の話に移らせていただきます。二か月ほど前に狭山市のシンボルについてお話しをさせて頂きましたが、皆様方の中には、その時に想像された方もいらっしゃるのではないかと思います。そうです。今日は埼玉県シンボルについてお話しをしたいと思います。

埼玉県には動植物が以前からの環境を保ちつつ、

種の維持や繁殖に繋いでいけるような、自然がまだまだまだたくさん残っています。県では、私たちに身近で親しみのある鳥や木、花、蝶、魚を県のシンボルとして指定しています。

詳細は後程として、県から指定を受けた時期の古い順に述べてみます。

- 県民の鳥 「シラコバト」 昭和40年11月3日
- 県の木 「ケヤキ」 昭和41年 9月5日
- 県の花 「サクラソウ」 昭和46年11月5日
- 県の蝶 「ミドリシジミ」 平成3年11月14日
- 県の魚 「ムサシトミヨ」 平成3年11月14日

この5種の中でも、**県の木「ケヤキ」**は他の多くの県・市でもシンボルとして指定を受けており、木それ自体は皆様もよくご存じだと思いますので、指定の背景等々を簡単に説明します。

県内に古くから自生し、『さいたま市の木』でもあり、そのさいたま市にある「清河寺の大ケヤキ」をはじめ、各地に県の天然記念物に指定されたケヤキがあります。因みに、埼玉県の巨樹83本中25本がケヤキで、うち2本がこの狭山市にあります。

1本は、県の天然記念物に指定されたケヤキで「廣瀬神社の大ケヤキ」、

そしてもう1本は、指定はありませんが「白鬚神社のケヤキ」です。いずれも近くにありまので、時間のある時にでも足を運んでいただければと思います。



また埼玉県には、「日本一長いけやき並木」として親しまれている通りがあります。埼大通りのけやき並木で、その街路にはケヤキが2400本ほど植えられているそうです。国道463号線の沿線に埼玉大学があることから埼大通りと呼ばれています。さて、「ケヤキ」と同様に、皆様よくご存じの花、県の花「サクラソウ」ですが、さいたま市にある田島が原サクラソウ群落自生地は、今も昔ながらの面影を残し、国の特別天然記念物指定となっています。荒川沿いにある秋ヶ瀬公園に隣接



しており、かつては荒川沿岸に広く自生していました。ニホンサクラソウはサクラソウ科に属する多年草で、自生地では林間の湿性地や原野の草間に生え、ときに群生します。花の色の濃淡は真紅から薄いピンクまであり、花卉の形は隙間のないものから隙間の大きいもの、先端が大きい、尖っているものなど観察されています。花卉の中心の白い円がはっきりしたものから殆どないものがあり、花びらの枚数は5枚が基本ですが、4枚、6枚～10枚まで観察されているそうです。花卉の遺伝的な形質は5枚でしょうが、何らかの変化で奇形ができるのでしょうか。4つ葉、5つ葉のクローバーに似ています。

私も元々は北浦和の出身ですので、この場所には昔から何回か足を運んでいました。そして、ここ数年は、仕事上の提出物の関係もあって、年に数回程浦和に来ており、その帰りがけにサクラソウ以外の野草も眺めに行っています。

田島が原サクラソウ群落自生地には、サクラソウが100万本～150万本生育していると言われ、他にも、チョウジソウやツボスミレなど約200種類もの野草を見ることができます。また、ノウルシも無数自生しており、さらに、これらの隙間にトダスゲ（戸田が原に生育していたことに因んでいる）、ノカラマツ、ヒノキガサが生育し、これら5種は準絶滅危惧種等に指定されています。勿論

これら以外にも目を楽しませてくれる植物があります。夏になるとアシ、オギ（ススキ属）が一面を覆い、サクラソウを保護しているのでしょう。ニホンサクラソウは江戸時代荒川原野に自生したものを種などで繰り返し栽培するうち、赤、桃、紫、白などの色変わりや様々の形の花形が生まれたそうです。

準絶滅危惧種等に指定されているとされるノウルシやキンポウゲ科の植物は、私の住んでいる近場の山などの行くと、まだ目にするかもしれませんが、これほどまとまって目にすることはありませんので、こちらへも是非足を運んでみてください。今月来月位はちょうどいい時期ではないかと思えます。残りの3項目は次回にお話しさせていただきます。宜しくお願いいたします。

田島が原 さくら草とツボスミレ



田島が原 ノウルシの原

幹事報告

小島幹事

1. ソウル国際大会 ウェビナーQ&A について
2. 2016 年度規定審議会について（報告）
（2016 年規定審議会クラブ関係の主な決定事項）
3. 2015～2016 年度 第 2570 地区ロータリーリーダーシップ研究会 DL 研修セミナーについて
4. 次年度役員・理事のお知らせ 所沢西 RC
5. 熊本地震義援金について 5 月末まで受け付けます
6. 受贈会報 入間 RC 所沢西 RC 所沢東 RC

「外来卓話」・・・・・・・・・・

富士見台幼稚園理事長

園長 野々宮 達也 様



皆さんこんにちは。お世話になります。

先程来ご紹介を頂いております、富士見台幼稚園の理事長園長を務めさせて頂いております、野々宮と申します。場所は狭山市の富士見 2 丁目にございまして、開園をして本年が 50 年目、半世紀が経つところになりました。狭山市においては、入曽にあります金剛幼稚園さんの次に古い私立の幼稚園でございます。50 年を経過させて頂きまして、地域の方々に色々ご指示、ご支援等を頂きまして、卒園児も 7000 名を超えるという状況になっております。

実は父が、狭山中央ロータリーが創始されたときの会員でございまして、会長も務めさせて頂きました。3 年半前に他界を致しましたが、今日が 1086 回目の会合ということで、随分時間が経っているのだなという印象を受けました。

私も狭山青年会議所に 12 年間在席をさせて頂きまして、理事長等も含めて活動を、狭山のためにという形でさせて頂きました。ご存知の方も多いかと思いますが、ロータリークラブさんやライオンズクラブさんとは少し活動の内容が違う狭山青年会議所の中で活動してきて、大体卒業をするとライオンズ、ロータリーの方に入会という者が多いのですが、実は狭山はこんなに小さな町でも、ライオンズは 2 つ、ロータリーはその当時 3 つございまして、先輩諸氏が本当にそれぞれの会にいらっしゃる、一業種お一人という縛りがございまし

たので致し方ない所かなと思いますが、どこからも声が掛かりますので、どこかに入るとどこかが顔が立たないという状況で、私たちの年代で入会をしたという者は本当に極僅かでございます。そのため、現在もそのような状況で推移をさせて頂いて、ロータリークラブにおかれましては、新狭山ロータリーに先輩諸氏が非常に多いのですが、狭山中央ロータリーにもお知り合いの方がとても多いので、どちらかに入会するとどちらかに顔が立たずという状況でいるわけです。

一部の人間の中には、狭山ロータリークラブをもう一度復活させて我々で何とかしようという話をする者もいるのですが、そこまで労力を使うのは、我々の年代ですとまだ難しいかなという所で今おります。そうした状況の中で、今日人生の先輩諸氏の中でお話させて頂く機会を設けさせて頂きまして、本当にありがとうございます。松浦さんからお話を頂きまして、引き受けさせて頂いたわけでございますが、実際にお話をするという事になった時に、私の職業柄、幼児教育の話を皆さんにしても、もう当然子育ては全て終わっていらっしゃる方が殆どでございましょうし、お孫さんの世代という状況になるかと思えます。しかし仕事柄もございまして、幼児教育についての現況と、これからの日本の社会的なものを含めてお話をさせて頂きまして、あともう一点、私実は保護司を 12 年ほどになりますか、させて頂いております。なかなか表に話が出てこない部分の話という形になるかもしれませんが、それも含めてお話させて頂きたいと思えます。少しでも皆さんの為になるようなお話をさせて頂きたいとは思っておりますが、幼児教育の話になりますので的外れになるかもしれません。宜しくお願い致します。

幼児教育の現況ということになります。皆様もマスコミの報道等でご存知の通り、少子高齢化という波が襲っているという状況がございまして。昨年の場合、狭山市の出生率は 1.33 という状況になりました。これが 1%を切ると壊滅的な状況になるということだそうで、ということは、もうまもなくという状況なのではないでしょうか。

幼稚園に通われてきているご家庭の状況を鑑みますと一人っ子というご家庭は非常に少ないです。

大体 2 人以上、多いご家庭は 5 人といた方もいらっしゃると思います。どちらかと言いますと、状況的には、結婚して子供をまずつくるのかどうか、後は結婚しないという方もいらっしゃるでしょうから、そのような中で出生率がどんどん低下しているということです。

昨日の新聞報道で、日本の平均的な出生率がここ数年間で初めてプラスに転じたとあり、しかもそれは 1.4 という数字になっております。日本全国の都道府県の統計で見ますと、一番高い数字を誇っているのは沖縄県でございまして、沖縄県は未だに 2%以上の出生率を保っているという状況であります。

地域差がございしますが、そのような状況の中で少子高齢化を今迎えているということで、狭山市も当然例外ではありません。先ほどお話致しましたが 1.3%台の出生率でございまして、出生率は途中から増えるということはございせん。途中から増えるのは、転入の形をとらなければ、当然その年度に生まれた子供の人口は増えせん。残念ながら狭山市の人口は最大ピーク時が約 18 万人に届くところまで参りましたが、それからはずんずん減り続けて今は 15 万人を切る状況のところまで参りました。そのため、途中から増えるということはまずない状況です。

幼稚園は 3 歳から就園をするという状況でございしますので、3 歳だけの就園人口を鑑みますと、現在のところ約 3200 名程度の子供たちが就園を迎えます。



保育園が非常に今、待機児童という形でクローズアップをされて問題になっているわけですが、狭山市も例外ではなく、施設を増やしていると当然ながら解消される時があるのですが、この間聞きましたところ今年の狭山市の待機児童数は 64 名だそうで、来年は 100 名に達するという予測があるようです。なぜそういったことが起こるかと言いますと、当然子供の年齢が毎年上がっていきますので、就園の年を迎えた子供たちが保育園を希望すれば、当然のことながら待機児童という形でお待ちになるご家庭の方がいら

っしゃるという状況になるわけです。そうした中で、来年は今年の 64 名から 100 名になるということで、解消をしなければならないという政府の国策がございしますので、当然狭山市も倣っていかねばならないと推移をさせて頂いております。しかしなかなか箱モノを作るとなるとお金もかかりますし、昨年市長になられた小谷野剛市長、実は青年会議所の後輩で、先日話をする機会があったのですが、実は今狭山市は 140 億円位の予算規模で推移をしているのだけれども、近隣の入間市を鑑みますと、入間市は大体同じくらいの人口、行政体で約 100 億円の予算計上での行政を推移しているということで、40 億円をどのようにスリム化するかということ非常に課題としていただいております。

狭山市は工業団地、特にホンダさんのような大企業を抱えていて財政収入が非常に裕福だった時代がありまして、それに伴い公立の幼稚園も 8 園ございまして。現在は 2 園まで減ったのですが、例えば入間市を見ますと金子の方に 1 園あるだけ、所沢市は 0、川越市も 0 でございまして。維持するにも、人件費にも非常にお金がかかります。極端な話を致しますと、閉園になりましたが、狭山市に堀兼幼稚園がございまして。最終的な園児数は 16 名、年間維持管理費が 1 億 6 千万円です。1 人当たりのどれくらい税金が投入されているかというのは計算がすぐできるという状況ですが、要するにそれ位のお金を使わなければ、人件費が一番かかるわけなのですが、維持管理ができないということで、閉園統合というところに話が持っていけました。当然在園をされているお母様たちは反対をするわけです。なかなか話が進まない状況の中で、やはりどこかで英断を下していかなければなりませんので、今までもやってきたけれどもこれからもやっていくとお話していただきました。狭山市においても公立の幼稚園は 0 にしていきたいという、小谷野市長の意向だということです。しかし幼児教育のことについてはなかなか良く分かっていないという部分がございしますので、皆様も子育てをしてきた中で、時代の変革がございすから、今の時代の子供たちの状況をお知らせさせて頂きます。

昔は、私もそうでしたが、小学校等から帰ってくると大体外で遊ぶことが普通でした。そこには上級生も下級生もおり、なんとなくリーダーシップを発揮する上級生がいて、それに従う下級生がいて、なんとなくそこに縦社会が子供なりに生まれていて、地域的にもすごく良く分かる、あそこに誰々がいて、ここに誰がいて、あの子はどんな感じだといったものがあったのですが、今は外に出て遊ぶということが、ほとんどございません。外に出て遊ぶのは兄弟か親子というのがほとんどです。もしくは、幼稚園等のサッカーや体操といった課外教室、公文に行く、英会話教室に通うといったことに活動の場を求めていって、子供たち同士のコミュニケーションを得るといことがほとんどだそうです。

少し体力的に弱くなってきています。状況的にお話をさせていただきますが、今幼児教育の現場で求められているものは、狭山市からも要請がございましたが、幼稚園、保育園、小学校の連携を深めていかなければいけないということです。これは何の問題なのかと言いますと、スムーズな小学校へのシフト、要するに幼稚園は学校の一番初めのステップという形で文部科学省から指導を受けながら推移をしていくわけでございますが、保育園は厚生労働省管轄の託児施設でございますので、そういった教育内容の部分はしなくて良いということなのです。他の民間の託児所についても同じような形で指導を受けているという形ですので、要するに預かる時に健康で、返す時に何事もなく帰っていくということが、状況的に一番良いとしているのが、幼稚園、保育所、託児施設なのです。ここで問題になってくるのが学力で、幼・保・小の連携の中で一つ出てくる問題がございます。地域コミュニケーションというものは、とにかく子供たちが小学校 1 年生の 30 名程度のクラスに入って活動し始めれば、友達ができ、仲間と一緒に食事をし、運動をしたりと、すぐに仲が良くなるのですが、なかなか学力の低下というものは個人個人のスキルの問題になりますので、否めないという状況になります。これも統計的データで全てでっており、私も狭山市の私立幼稚園協会の会長をさせて頂いているので、狭山市の各審議会、教育の策定

会議等、色々な委員会に出席させて頂いているのですが、そこで頂く資料を見て先日びっくり致しました。

埼玉県下で数字的にみると狭山市はかなり低い方です。平均を全て下回っております。各教科、6教科程度あったと思いますが、平均を全て下回っておりました。小谷野市長もこの学力低下は何とかなしければならないので、どうしたら良いか知恵を貸して下さいとお話されておりましたが、結局のところ、小学校 1 年生に入学をして、同じクラスに入った 30 名が、例えば幼稚園から来たのが 15 名、保育所が 10 名、その他の施設等が 10 名といった形になったとき、同じ環境の中で同じような状況ができるわけではないのです。これをどのように進めたら良いかということの問題をクリアして行かなければ、小学校の 1 学期はまるで役に立たない学期になってしまうというお話がございました。何故かと言いますと、教科学習というのは、入学し、算数は 1+1 から始まったとすれば、2 桁の数字の足し算まで進むのが大体 1 学期なのです。それを進めていかなければならないのに、授業中に立ち歩いてしまってふらふら、室内にいるならまだしも、廊下や外にまで行ってしまうような子がいたり、またノートを広げ、教科書を広げ 40 分なりの間、黒板をみて板書をしたりといった作業が 1 年生から始まるわけです。先生の話をしっかり理解しながら進めていく、そういった経験がなければ、いきなりそうしたことを求められてもやはりできないという状況がございます。落ちこぼれをつくらない教育というものを、もう何年も前に、中教審や日教組が出しましたけれども、結局のところ落ちこぼれを作らないためにゆとり教育というものを作り、時間を使いたい形で使えるようにしたのに、それがなかなか上手く機能しなかったということがございます。そんな推移をしてきておりますので、今小学校入学する時の教育を受けている園児と、あまりそういった教育を受けていない幼児の混在した小学校 1 年生のクラスで「小 1 プログラム」といった事象が起きております。この「プロブレム」とは、先ほどお話ししましたように、授業に対して集中できないといったことや、そこに留まることができないとい

た状況です。この問題は全ての公立小学校が抱えている問題でございます。私立の小学校については、一切このようなことはございません。なぜならば、受験をしてくるわけですので、そういったレベルの子が入ってこないという形です。言葉は悪いかも知れませんが、公立小学校と私立小学校の進み分けというもの、ものすごく進んでおります。そのため、私共の幼稚園に入園をしてきて、年長で卒園をしていく約 100 名弱の園児たちの中で、私立小学校への受験を希望し、入学していく園児が非常に増えました。もともとありました、更に増えているといった状況です。

教育環境を求めている、狭山市の公立小学校に行くことが、どのような状況で小学校 1 年生の時期を迎えるかということが明白にわかっておりますので、そういったところを避けたいという形だと思います。しかし私も地元の小学校で育ちましたので、そのほかの有意義なこと、先ほどもお話ししました通り、友達をたくさん作るということを含めてたくさんございます。これからこういった形でその学習に取り組んでいったらよいのかということが、子供たちのこれからの課題となるかと思えます。

人口ピラミッドで今一番多いのは団塊の世代、60 代中盤くらいの人口比率が非常に多いわけです。若くなれば若くなるほど先細りになっている状況でございます。先進諸国の中で唯一日本だけが総人口が減っているという現状が、確か 2~3 年前から始まりました。これは本当に由々しき問題といえますか、かなり難しく、国力に左右される問題となってくるわけでございます。

日本の社会システムの中で必要な物はなくならない状況になります。労働力の確保等、非常に難しい時代となってきたり、募集をしてもなかなか集まらないという状況です。ではそれをどのようにしていくか、これから先もっともっとひどくなるわけですから、そうすると外国人を入れるしかないという形になってくるのだと思います。例えば今人口過多で今どうしようもない状況になっている中国や、東南アジアの諸国、今も非常に多く来ておりますが南米諸国、そういった所の労働力に頼っていくしかない、そしてそのリーダーシップ

をとるのは日本人という形になると思うのです。皆様のお孫さんや、その後の世代にくる子供たちが日本の社会で生きていくためにはどうしたらいいかと言いますと、より一層学力社会が厳しくなる、人口は減っているのですが、もっともって格差が出てくるという状況になります。要するにトップに立てる人材たる自分になることができ、そしてトップに立つことができるかどうか、そしてそれを補うための人材が確保できるかどうかということ、これが非常にテーマになってくるのではないかというお話を聞いたことがございます。

日総研という所がございまして、これはシンクタンクでもありますし、色々な経営コンサルタント等も含めて行っている所ではありますが、既に 20 年先の日本の経済状況というものを見ているということで、お話を聞く機会がございました。非常に恐ろしい状況だと感じとりました。とにかく経済状況とは色々な状況で推移致しますし、当然色々な影響を受けて動くわけです。日本だけの問題でないのは当たり前のことですし、中国や韓国、そしてアメリカ等、日本にしてみればその辺りの国の影響は非常に多くなっているかと思えます。そしてこれからもっともって中国の影響を日本は受けるようになっていくかと思えます。しかし爆弾を抱えていることも事実でございますし、経済がだんだん破たんの方に向かっているということも中国ではございますが、しかし中国が強いのは一党独裁の政治でございますので、最終的には恐らく、アメリカの債権を放出して世界に混乱をきたすような状況くらいまで行き、中国は自分の国を守っていくのかなといったところだそうです。日本は国力的に非常に強い部分があると認識をされているようですが、実はその辺の力関係でいうと非常に弱い立場ということ。幼児教育の中の、今現在の子供たちが巣立って、そして成長して行って、日本を担う年になったときには、そんな時代という状況で、そのためにどのような対応をしていったらよいのかということが、一番の課題であるということでございます。

子供の英才教育にご興味がある方もいらっしゃる方もいらっしゃると思いますが、何をしたらいいかと言いますと、一番簡単かもしれませんが、

音楽を聞かせることです。子供もそうですが、我々も脳の波長によって、リラックスができたり、集中ができたり、そういったことに非常に影響を及ぼすのが音楽でございます。好きなものを聞くということが一番なのかもしれませんが、その波長だけを捉えて考えると、どうしてもクラシックが一番当てはまる音楽のジャンルだそうです。私も研究を多少させて頂いた経緯があるのですが、特に幼児期の音楽を視聴するについて、ショパンの楽曲が一番脳波にとってベストであるということです。どういったときに聞かすかといいますが、就寝をするとき、絵本等をお母様が読まれる場面もあるかと思いますが、そういった時にも流しておくといった使い方をしていくと、非常に脳の成長発達にプラスに役に立つということが、実データで立証されているということでございます。男女の比はございません。3歳~5歳の幼児を対象としたデータでございますが、そういったものがございました。

子供たちの将来については、まだまだ色々なことを話していきたいものもあるのですが、時間もありますので、もう一つ先ほど述べさせて頂きました、私保護司をさせて頂いて約13年になるのですが、狭山市の現状を少しお話させて頂きます。最近色々な形で狭山も、新狭山で子供が残念な形でお亡くなりになったりと、実は昨日も入間市だったでしょうか、母親が生後4ヵ月の子供の顔を殴ってしまったりとといったことが、狭山の警察管内でございました。

犯罪というものに触れる機会は恐らく直ではないということが多くかと思いますが、狭山市内の状況の中で、この季節一番多いのは露出狂、痴漢行為、要するに性犯罪に関わるものが非常に多くなってきている状況でございます。防犯の関係で色々な形で通知を頂くところがございますので、皆様の所にも届いているかも知れませんが、大体週に5~6件というのが平均です。地域的なものはそれぞれバラバラなのですが、色々な所で、街中ではございませんが、週に5~6件、露出の方が多かったでしょうか、ございます。また自転車で抜くときに胸やお尻を触っていく等といったことがございます。実際に障害的なものを受けた、傷を負わされ

たということはないわけですが、女の子にしてみましたら心の傷は当然負うわけでございますので、非常に厳しい状況下と思います。

狭山市内に保護司は現在23名おります。それぞれの保護司が抱えている対象者が、平均して2.5位でしょうか、2~3の間であります。私も実際それくらいの人数を抱えております。私は富士見2丁目に住んでおりますので、対象者が月に2回程面談を受けにくる形をとるわけですが、生活圏内で割合と来やすい所の保護司の所に来るということでございますので、私の所に来ますのは大体、富士見1丁目、2丁目、入間川の300番台~600番台くらいまでで生活をしている方です。大体13年間の保護司生活の中で、途切れることなく大体2~3名の対象者がいらっしゃいます。保護観察の期間は犯罪の重さによって長さが違うわけですが、短い方でも6ヶ月以上、長い方だと3~4年という方もいらっしゃいます。長いのは大体覚せい剤関係の薬物の犯罪、もしくは性犯罪です。実際にそれ位の人数の方たちが、今保護観察を受けている状況の方たちがいらっしゃるということです。

犯罪というのは、身の回りに本当に影を潜めております。予防策というものは多々あるかと思えます。今は防犯ブザーや携帯電話を子供に持たせるといったことがございますが、身の安全は親が確保するつもりなのか、本人がプラスして対処できるような形にしておくのか、非常に難しい問題だと、心配なことはたくさんあるかと思えます。予防して、過ぎたるは及ばざるが如しということももしかしたらあるかも知れないと思いますが、とにかく何もせずに巻き込まれるよりは、少し対処すべき問題なのかということが感じられますので、お孫さん等の行動の範囲の中で安全を確保できることが一番かと思えますので、参考にされると宜しいかと思えます。

纏まりのない話で申し訳ありませんでしたが、またロータリークラブとも交通安全のチラシ配り等、何らかの形で接点はあるかと思えます。その時には皆様にご挨拶させて頂ければと思います。本日はお招き頂き、また話を聞いて頂き、ありがとうございました。皆様のご活躍、ご祈念申し上げます。ありがとうございました。

ニコニコボックス

江原君 富士見台幼稚園園長でいらっしゃる野々宮達也様お忙しい中ようこそお越し下さいました。本日の卓話を楽しみにしておりました、何卒宜しくお願い申し上げます。

小島君 富士見台幼稚園園長 野々宮達也様お忙しい中お越し頂きありがとうございます。お話し楽しみにしておりました。

稲見君 富士見台幼稚園園長 野々宮達也先生
ようこそおいで下さいました。今日のお話し楽しみにしています。

浜野君 富士見台幼稚園園長 野々宮達也様ようこそお越し下さいました。本日の卓話楽しみにしていました。宜しくお願い致します。

松浦君 富士見台幼稚園園長 野々宮達也様、今日はお忙しいところお出で下さいましてありがとうございます。楽しみにしていました。

益子君 富士見台幼稚園園長 野々宮様、本日の卓話楽しみにしていました。宜しくお願いします。

宮野君 野々宮達也様ようこそお出で頂きました。大変申し訳ないのですが、仕事の都合で早退致します。

※次の例会

第2副 SAA 宮野君 宮岡君

6月7日 (火)

12:30~13:30

外来卓話 国際ロータリー第2570地区パストガバナー

石川 嘉彦 様 (入間 RC)